

<p>a 学校教育目標</p> <p><市教育委員会教育基本理念> 「志を抱き、その実現に向けて考え、行動できる未来の創り手の育成」 <これからの三原市の学び> 「教える学びから全ての子供が自ら考え行動する学び」 ～子供同士の学び合いの充実～ <糸崎小学校教育目標> 「学び、つながり、挑戦する子ども」 ―地域を支え、世界で活躍する姿をめざして―</p>	<p>b 経営理念 ミッション・ビジョン</p>	<p>【ミッション】(自校の使命) 郷土に誇りをもち、自ら考え、判断し、決断して行動できる児童の育成</p> <p>【ビジョン】(自校の将来像) 自分で決めて挑戦し、共に学び合う「知・徳・体」の調和のとれた糸崎っ子を育成する。</p> <p>【求められる教職員像】 自己成長に努め、協働し、自らチーム糸崎小の一員として創造的に職務を果たしていく教職員</p>
--	-------------------------------------	---

評価計画				自己評価					改善方策		学校関係者評価							
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	担当	9月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価			m コメント			
						達成	達成					イ	ロ	ハ				
確かな学力の育成 主体性・積極性を育て、子ども主体となる授業づくりを進める。	<p>◎自分で決め、学びに向かって挑戦し続ける「深い学び」をファシリテートする授業づくりを推進する。</p> <p><糸崎小版学びあい> ・必然性のある発問 ・子ども主体の学び ・対話による伝え合い ・ルーブリック共有 ・思考ツール ・キャリア教育の視点 ・深い学びとレジリエンス ・学びポートフォリオとしてのキャリアログや成果物での振り返り等</p> <p>◎教科学習とレジリエンスに関わる研修を推進する。</p>	<p>①精選し、効率化した授業内容の創造・毎時間のねらいを原則1点にしぼる。</p> <p>・パフォーマンス課題を作成・実施して子ども自らが動き出すような「深い学び」をファシリテートする授業をつくる。</p> <p>・多様な学びを選ぶことができる環境づくりを行う。</p> <p>・書く、話す、聞く、描く、ICT機器を活用、思考スキル活用によるアウトプット主導の伝え合い活動を保障する。</p> <p>・めあてに対して視点を明確にした振り返りを保障する。</p> <p>②学びポートフォリオ(キャリアログ、各教科の学びの成果物)をもとに自らの学びを再構築する。</p> <p>・日々の学びの振り返り、友達との相互評価、担任との対話を積み重ねる。</p> <p>・三者懇談会で学びの成果と課題、克服について具体物を見せながら言葉で伝える。</p>	<p>・NRT、全国学力学習状況調査(偏差値51以上)の数値結果 ・学期末テスト(80点以上) 国語科、算数科における知識・技能、思考・判断、活用カテストの数値結果</p> <p>・学習アンケート「学び(考えること)がおもしろい」の関連項目について肯定的評価をしている児童の割合</p> <p>・学習アンケート「比べて聞く」の関連項目について肯定的評価をしている児童の割合</p> <p>・学習アンケート「学びポートフォリオ(キャリアログ)の学びの成果物」で自分の学びを振り返り、自分の成長や課題がわかる児童の割合</p>	80%以上	教育研究部	75.0%	78.0%	97%	B	<p>・国語科において80点以上到達した児童の割合は、1年生88%、2年生100%、3年生86%、4年生78%、5年生70%、6年生で92%であった。よって、全学年では、78%であった。</p> <p>・算数科において80点以上到達した児童の割合は、1年生88%、2年生85%、3年生90%、4年生74%、5年生22%、6年生で63%であった。よって、全学年では、70%であった。</p> <p>・学習アンケートについては、「考えることがおもしろい」と肯定的に評価した児童は90%であり、学ぶことがおもしろいと感じている児童が多いことが分かった。</p> <p>・学習アンケートでは、「比べて聞く」に肯定的評価をしている児童の割合は91%、「結論先行、理由をつけて説明する」に肯定的評価をしている児童の割合は76%であった。理由つけて説明することに苦手と感じる児童が多いことが分かる。</p>	<p>・授業においては、「糸小モデル」である、課題設定・学び合い・まとめ・振り返りを全教職員で徹底して取り組む。特に、振り返りでは、方法・内容・自己の成長等、自己の学びについて振り返り、振り返ったことを文章で表現し、交流する時間をきちんと確保する。</p> <p>・本年度に引き続き、各学年の本校の目指す授業(糸小モデル・深い学び)の在り方に関わる授業提案を、外部講師を招き、客観的に見てもらうことで、本校の研究をより良いものにアップデートしていく。</p> <p>・校内研修を計画的に実施し、充実させていくことで、全教職員が共通認識をもって、児童育成に努めることができるようにする。</p>	4	イ	ロ	ハ	<p>・改善方策の第1項目にある「糸小モデル」(糸小版学びあい)で目指すものは、「自律的な学び手」を育てると理解できます。その中核はレジリエンスと呼ばれる柔軟性であり、学びに向かう力と思われず。さらなる実践を期待します。</p> <p>・学びのポートフォリオは軌道に乗って有効に機能しつつあります。自分を見つめる心の育成は大切にしたい。生きる力につながっていくと考えます。</p> <p>・校内研修を定期的に行われていること。研修成果がでてきている学年もある一方で、引き続き授業改善に取り組んでいただきたいです。</p> <p>・中学校3年生の15の春を見据えた取り組み、ありがたいです。引き続き小中連携をよろしく願います。</p> <p>・「深い学び」が「回復力の育成」にどのようにつながっているのか、なぜ「回復力の育成」が「自律的な学び手」につながっていくのか、理論的な根拠と説明がほしいです。</p>		
						90.0%	90.0%	106%	A								<p>・学びポートフォリオや三者懇談会で、自分の成長や課題把握につながっている児童は、92.3%であった。</p> <p>・三者懇談で自分の学びを振り返り、表現する活動を行う中で、自分の成長や課題を見つ、語ることができました。</p> <p>・学びポートフォリオや三者懇談の中で、目標に対して、これから自分がどのように行動したり、学習したりしていく必要があるか自分自身について考えることができた。</p>	<p>・学びポートフォリオや三者懇談の中で、自分が頑張ったこと、これから頑張りたいことが表現できるように、普段の授業から自分の考えをもち、表現して時間をきちんと確保する。</p> <p>・自己を振り返る時間を意図的・計画的に教育活動の中に設けることで、計画が自己の行動を振り返り、改善・修正していけるようにしていく。</p>
						85%	84%	100%	A									
90%以上	100%	100%	111%	A	<p>・全ての項目において80%以上だった。前半に比べ数値が上がっている。各学期に1回ずつ期間を決めて学級で決めた目標(学級ギネス)に挑戦することを減して、お互いを認め合うことや学級の目標達成に貢献するなどの意識が高まったのではないかと考えられる。</p>	<p>・今年度の学級ギネスの取り組みを来年度も引き続き行い、達成感や自己肯定感、有用感を感じさせていきたい。全校で取り組み内容や結果を交流すること、学級や個人でのふり返りすることも継続していきたい。</p>												
豊かな心と健やかな体の育成 協働し、挑戦し、自分の役割を果たす中で、豊かな人間性や体力を培う。	<p>◎自己決定の場、振り返りの場を保障して、糸小ギネス等を通して友達とつながり、挑戦する子どもを育てる。</p> <p>◎自己決定の場、振り返りの場を保障して、Jタイムや糸小ギネスと関連つけた体力づくりを推進する。</p>	<p>①糸小ギネスに全員が挑戦する。</p> <p>・期間を決め、行事等との関連から必然性を持たせた取組とする。</p> <p>・集団目標とその目標を皆で達成するための個人目標を決めて取り組む。</p> <p>・自己決定と振り返りの充実を図る。</p> <p>②Jタイムや体育の授業での取り組みを糸小ギネスを関連付けた取り組みとする。</p> <p>・体力づくりアンケート 体を動かすことが好きな項目関連の肯定的評価及び自分の目標に到達している児童の割合</p>	85%以上	生徒指導部			80%	87%	102%	A	<p>・運動が好き(62.9%)ややすい(27.3%)の合わせて90.2%の児童が運動に対して肯定的な思いをもっていた。年間を通して週2回Jタイムを行い、Jタイムが楽しいと感じている児童94%、Jタイムが体力づくりに役立っていると感じている児童91.6%と、楽しく体力づくりが行えている。またその持続可能な体制づくりもできている。</p>	4	イ	ロ	ハ	<p>・様々な領域での「糸小ギネス」への挑戦は、全児童の向上心の涵養、生活意欲の喚起につながっているといます。</p> <p>・様々な取り組みで児童の肯定感・自己有用感を高められていくようにしていきたいと考えています。</p>		
					90%	90%	106%	A	<p>・今後引き続きJタイムを週2回実施する。またサーキットトレーニングを体育の準備運動に取り入れ楽しく運動をしていくうちに自然と体力が身につくようにする。</p> <p>・体育参観日や持久走大会も実施し、糸小ギネスと関連付けて児童の意欲を向上させ、振り返りの時間をつくる。</p>									
信頼される学校 教職員の働き方改革を推進する。	<p>◎学校における組織マネジメントを確立し、業務改善を推進する。</p>	<p>①業務改善委員会が改善方策を検討し、実施する。</p> <p>・自己申告による定時退校日・・・1日</p> <p>・毎週木曜日のすいすい定時退校実施</p> <p>・17:20からのサイレントタイム実施</p> <p>・18時の確実な施錠</p>	85%以上	教務部・総務部	92%	92%	108%	A		<p>①業務改善を進めていた結果、在校時間(外)が35時間以下の職員数92%となり、目標を達成することができた。教諭は全員、35時間以下であった。業務改善として、成績処理・事務処理日などを設け、スケジュール管理を行ったこと。行事の精選。業務内容の見直し等の改善方策の成果が出ていると考えられる。また、職員同士が相談・課題の共有を行い、仕事に対して真摯に向き合う風通しの良い職場ができていると考えられる。課題として、持ち帰って仕事をしている実態がある。</p>	3	イ	ロ	ハ	<p>・日々の健康管理にご留意ください。</p> <p>・中学校では持ち帰りがない分、在校時間が45時間超の職員がいます。小学校の取組を参考にしていきたいです。</p>			
					92%	92%	108%	A	<p>以下の方策で更なる業務改善を図りたい。</p> <p>・教育課程の見直し</p> <p>・スケジュール・締切等の可視化</p> <p>・持ち帰り仕事をなくすための方策の検討</p> <p>・仕事術の共有化</p>									

訂:自己評価・評価
A:100≧(目標達成) B:80≧(ほぼ達成) <100 C:60≧(もう少し) <80 D:(できていない)

【:学校関係者評価 評価】
イ:自己評価は適正である。 ロ:自己評価は適正でない。 ハ:分からない。

